

「新しい世界の秩序」対「嘘の帝国」：ラヴロフの国連演説主要点

<https://www.rt.com/russia/583450-lavrov-un-speech-empire-lies/>

RT

September 23, 2023

アメリカとその連盟国は、多極的世界の実現を阻止しようと、新しい紛争を煽っている——とロシア外相は考える



世界は、一つの多極的世界秩序を作り出すことによって、国際関係での「本物の民主化」を達成し、第2次大戦終了後初めての、そのような機会を手にすることができる、と日曜日、国連総会に対し、ロシア外相セルゲイ・ラヴロフは話した。しかしアメリカとその西側連盟は、そのような展開を食い止めようと努めており、新しい紛争を掻立てることによって人類を分裂させ、彼らの「グローバルな少数派の覇権」を固定しようとしている、と彼は言った。

1. 西側は「嘘の帝国」

アメリカとその同盟国はいまだに、国際関係における平等の原則を拒絶し続けている、とラヴロフは言った。アメリカ人とヨーロッパ人は、世界の残りの人々見下し続けており、それは、彼らがどんな交渉にも「絶対に動こうとしない態度」につながっている。ワシントンとその同盟国は、「左や右に向って約束はする」が、それは常に破られ続けている、とロシア外相は加えた。

「ロシア大統領ウラジミール・プーチンが言ったように、西側は現在、本物の〈嘘の帝国〉になっている」と彼は言った。

2. 〈向こう見ずな〉西側の政治家たちは、自己保全を忘れてしまった

NATO の活動は、冷戦が終わって以来「前例のない」レベルに達している、と、このロシアのトップ外交官は考えている。アメリカに指導されたこのブロックの軍隊は、ロシアに対する核攻撃のシミュレーションを含む訓練を行ってきた、と彼は主張し、ワシントンもまた、オーストラリア、韓国、日本のような国々と軍事的・政治的連盟を築くことによって、アジア・太平洋の軍事力を投影すべく盛んに活動し、それら諸国の NATO との協力を密にするように働きかけている、と加えた。

そのような行動は、ヨーロッパの力に加えて、「さらに新しい爆発的な地政学的ホットスポットを作り出す危険がある」と、ラヴロフは警告し、「西側の政治家たちは、何をやっても罰せられないことに慣れてしまい、〈自己保全の感覚〉を失ってしまったのだ」と、つけ加えた。

3. 国際的関係における真の民主主義は手の届く所にある

国連が設立された 1945 年以来初めて、世界は、真に民主的な世界秩序を手にする機会を得ている、とロシア外相は言った。「グローバルな多数者」——すなわちアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの諸国——は、ますます独立と平等、また国際関係における自分の主権への敬意を求めつつある。

「それ以外に方法がないことは、ロシアにとって明らかである」と、ラヴロフは国連総会で話し、加えて、この事実は「国際法のルールを信じ、国連が世界の政治学の、中心的な調整の役割を回復してほしいと願う人々に、楽観的な希望を与えている」と言った。

4. 西側は正当な世界秩序の邪魔をしている

アメリカとその同盟国は、多極的な世界秩序の希望を妨げようとしており、特にそれは「紛争を掻立てて、人為的に人類を敵対するブロックに分け、それが共通の目標に到達するのを妨げている」とロシア外相は指摘した。西側は、世界が「その不名誉で自己中心のルールを演ずる」ことを求めている、と彼は言い、国際社会はそうでなく、あらゆる人が「公平な利益のバランスを基本として、どうすれば問題の解決に合意できるか」に努力すべきだとつけ加えた。

5. 西側の制裁は世界を傷つける

ロシアは、キューバ、ベネズエラ、シリアといった国々に課せられた制裁が「直ちにかつ十分に」解除されることを求める、とラヴロフは言い、そのような一方的な懲罰の方法は「ひどく国家の主権的平等を傷つけ」これらの国家の権利の発展を妨害するものだ、と加えた。

「人は国連安保理を妨害するような、いかなる強制的な方法をも取るべきでなく、また西側がその制裁政策を操って、望ましくないと考える者たちに、圧力をかけるような習慣はやめるべきだ」と彼は加えた。

ロシアのトップ外交官はまた、アメリカが、モスクワと協力しようとする国々に脅しをかけていることを強く非難した。

「大国たる者がこのように駆けずり回り、あらゆる者を脅迫して、支配欲を満たそうとする様子を示すのは恥ずべきことだ」と、彼は国連総会の終了後に、記者たちに話した。

6. ロシアのウクライナ紛争へのスタンス

モスクワはいつでも、キエフとの現行の紛争について話す用意がある、とラヴロフは、国連総会での本論以外の問題を記者たちに語った。しかしロシアは、停戦に関するどんな取引も考えていないと言った。モスクワとキエフは、この紛争の最初の数か月で、ほとんど合意に達したようになっていたが、その後、ベラルーシとトルコでの一連の会談から、その成り行きが、おそらくウクライナの西側支持者によって、挫折されられたことがわかったのだ。

「プーチンは非常にはっきりとこう言った：——そうだ、我々は話し合いの用意はある。しかし我々はどんな停戦の提案も考えていない。なぜなら我々は一度そうしたが騙されたからだ。」

ロシアはまた、ウクライナの独立宣言とそれが継続していることに応じて、ウクライナの主権を尊重する、とラヴロフは言い、双方の文書とも、ウクライナの提携しない立場と、ロシア語やロシア語を話す少数者への敬意を認めている、とつけ加えた。

ウクライナの主権は「あるクーデタを演じ、これを支持した者たちによって破壊された。その指導者たちは、その後で、彼ら自身の人民に対し宣戦を布告したのだ」と、ラヴロフは、2014年のマイダンのクーデタに言及して言った。

7. 西側は〈事実上〉ロシアと戦争している

アメリカとその同盟者は、事実上、ロシアと戦争をしている、と、ラヴロフは記者団に語った。「我々はそれをハイブリッド戦争と呼んでいるが、それによって事態は変わらない」と彼は言った。西側諸国はキエフに兵器を送り、その軍隊を訓練している。だから「彼らは事実上、ウクライナ人の手と身体を使って、我々と戦っているのだ」と彼は説明した。

西側諸国はまた、公然と「ロシアは戦場で敗北させるべきだと言っている」とラヴロフは言い、モスクワはそのような展開を用意している。「どんな状況であっても、(もし彼らが戦場を望むなら) お望み通りにしようではないか」と彼は言った。

[訳者 Greatchain 注]

ラヴロフでも、プーチンでも、あるいはザハロフ報道官でも、ロシアの政治家の言うことは、我々にはほぼ全面的に信用できる。ラヴロフはここで、アメリカが「自己保全の感覚」*sense of self-preservation* を失って、善悪の見境がつかなくなっていると言っているが、これは直前の記事でも、他の場所でも、我々が論じていることと同じである。

そこで、わが国の政治家、メディアの方々をはじめ、ロシアを全面的に（善悪の観点から）否定する方々に訊いてみたい。もしあなた方の中で、ラヴロフの言っていることは間違いで、嘘や不誠実が大いに含まれていると主張される方がおられたら、どこがそうなのかお教え願いたい。